

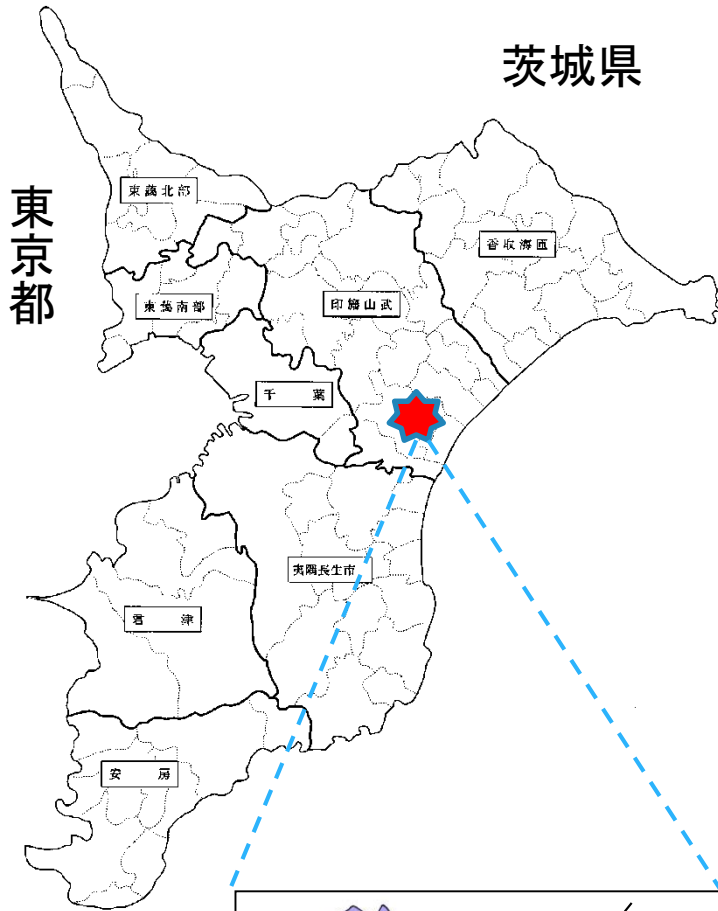
独立行政法人福祉医療機構・社会福祉振興助成事業  
事業事例紹介

「子どもの居場所とパーソナルサポート事業」



特定非営利活動法人ちば地域生活支援舎

# 千葉県東金市の概要



## ＜九十九里地域の中核都市＞

東金市は、東京都心まで約60キロメートル、千葉県のほぼ中央部に位置しています。人口は約6万人弱。古くは江戸時代、徳川家康の鷹狩りのために「御成街道」が造られたことにより、この地に宿場町と近隣の農産物が集まる問屋街とが形成されました。以降、東金は物流の集散地としてにぎわうようになり、九十九里地域の中核都市として発展しました。

## ＜東金地区の特徴＞

東金地区は、市内中心部。旧住民が多い地域でもあるため、地域のつながりが強い部分もありながら、一方で新住民も増えているため、地域組織の崩壊も進んできている。また、その中で経済的困窮者や世帯が見えにくくなっている。

また、児童への虐待等も近隣地域の中では、上位2位を常にキープするような状況でもある。

年	人口	世帯人口	若年世代率	高齢化率	生活保護率
平成31年	58,554	2.20	10.9%	28.9%	
平成30年	59,119	2.23	11.2%	28.1%	
平成29年	59,671	2.26	11.3%	27.2%	14.36
平成28年	59,962	2.30	11.5%	26.2%	14.18
平成27年	60,201	2.34	11.7%	25.2%	13.43
平成26年	60,344	2.38	11.8%	23.9%	12.66
平成25年	60,482	2.42	12.0%	22.9%	12.02
平成24年	59,250	2.47	12.4%	22.3%	11.23
平成23年	59,404	2.50	12.7%	21.3%	10.45
平成22年	59,593	2.54	13.0%	21.0%	9.10

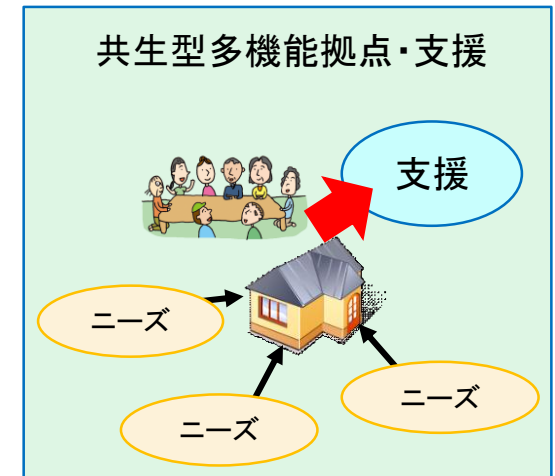
# 法人の活動

- 地域の中で生きづらさを抱えている人たちの、地域みんなで支える拠点づくり
- 24時間365日に必要な支援ができるサービスと人づくり
- 地域共生ケアづくり

を目指し、2004年に法人を開設。

〈東金市内を主に、高齢者・障がい者・子ども・生活困窮者等を支援する拠点を整備〉

分類	主なサービス
高齢者	小規模多機能型居宅介護、認知症高齢者グループホーム
障がい者	共生型生活介護、共生型自立訓練、共生型短期入所、就労継続支援B型、相談支援
子ども	児童発達支援、放課後等デイサービス、企業主導型保育事業
生活困窮者	生活困窮者自立相談支援事業
地域福祉	サロン、ふくし塾、フォーラム、研修会、調査



# 事業の概要

当初(H28)  
の背景

東金市生活困窮者自立相談支援事業を実施する中で、相談者の世帯にいる子どもへの支援、特に、学習や生活面での支援が必要と実感。

子どもの自立・自律と共生事業



H29年度の  
取り組みと  
新たな課題

貧困世帯の子どもの実態把握を行いながら、困窮世帯でかつ支援が十分でない子どもへの居場所・学習支援・体験活動支援等を関係機関の協力のもと実施した。

【新たな課題】 経済的な困窮のみならず、ネグレクトをはじめとした児童虐待のケースや子育てが十分にできない親・家庭内の実態。また、東金市は、圏域でも虐待件数は上位をキープし、支援機関・団体が十分でない状況。

子どもの居場所とパーソナルサポート事業



H30年度の  
取り組み

困窮世帯の子どものみならず、様々な困難を抱える家庭の子どもと保護者に対し、必要に応じて多機能な支援(居場所・学習支援・食事支援・相談支援)を他機関・団体と連携して行うと共に、地域の関心と協力づくりを実施した。また、サテライトも設置した。

【新たな課題】 子育て環境が十分に整わない家庭や親を持つ子どもへの多機能な支援・包括的な支援を実施している機関がない(見えない)こと。また、拠点に通ってこれない子ども達への支援が十分でない状況。

子どもを地域で包括的に支援するアウトリーチ型多機能拠点づくり事業



R元年度の  
取り組みと  
新たな課題

H30年度の取り組みをベースに、アウトリーチや送迎機能も備え、より包括的なサポートを強化している。また、サテライトにおいては、保護・養護的機能と共生型サービスの強みを生かした支援を実施。

## A子

真面目な性格、学習成績は中程度。  
一定の収入があり公的扶助は受けていないが、借金による差し押さえで経済的に困窮。二部屋のアパートに祖父、叔父、母、本人、妹の5人で生活。母親は交際男性と同居でほぼ不在。祖父、叔父、母、妹は知的障害があり、学習環境や進路への応援体制に恵まれず、将来への夢が描けず、学習成績が伸び悩んでいた。

- ▼家庭・学校生活の悩み相談
- ▼進路・学習の個別面談
- ▼学習支援の体制づくり
  - ①教科の指導可能コーディネーターの配置
  - ②受験対策の特別講座開設
- ▼高校入試への具体的支援
- ▼健康面での支援(食事・かぜ対策など)

- 明確な進路希望を持つようになる
- 苦手教科の克服
- 学習習慣の定着、学習成績向上・安定
- 地域の進学校に前期合格
- 部活動と両立させ高校生活を楽しんでいる

## E子

母と本人、弟4人6人家族で生活保護受給。  
授業に付いて行けない、母親が付き合う男性への反発等の理由で不登校昼夜逆転の生活、時々遅れて登校するが、別室登校高校進学イメージがつかめず、就職希望。テスト未実施の為成績なし  
読み書きは比較的できて、文章は書けた 数学・英語は中1の学力なし。

- ▼最初はおしゃべり、食事だけで受容。
- ▼通所回数を増やし生活のリズムづくりと食事の習慣化を図る。
- ▼進路面談、将来の生活をイメージし高校進学の必要性を理解させる
- ▼個別の学習支援
- ▼高校見学(体験活動を高校を会場に実施)  
高校入試の具体的支援

- 地域の面倒見が良いと評価の高い私立高校に専願で入試に臨み合格
- 赤点が2教科あったが、追試験で無事合格
- 遅刻が数回あったが休まず登校

支援



効果

## Y子

母、本人、弟の3人で生活。母は派遣社員で低収入、アパート生活。短気な性格で、虐待の疑念有。迎えの際、大きな声で叱責、母親の事情で児相保護の経験あり。本児は、働く母を支えて、掃除・選択・炊飯などの家事を担っている。会話が少なく、問に対する返答もはっきりしない。知的能力は高い祖母、叔母夫婦が市内在住

## &lt;導入支援&gt;

- 下校後、家事をこなしてからの為、食事時間ぎりぎりの通所が多かったが受容
- あまり介入せず見守る程度の学習支援、読書を好んでいた
- 母親の迎えのタイミングでコーディネーターが必ず会話、傾聴

## &lt;変化・効果&gt;

Y子→一人でいることが多かったが、他と交わるようになり、中学生との交わりを好んだ。

- ・食事中の会話にも口を挟むようになり、食事を積極的にお替りするようになってきた。
- ・家庭の事には触れないが、大人との受け答えが比較的増えた。

母親 →迎えの度に、きつい声で支度を急かすなどの態度がなくなり、コーディネータと会話をするようになった。

## &lt;次の支援&gt;

母親の急な残業などに対応して、活動終了後の預かりや送りサービス開始

## &lt;変化・効果&gt;

Y子→家庭での出来事など徐々に語るようになり、言動も活発になってきた。

家族との信頼関係が本児の心を開いて来ているように思われる

母親→職場の愚痴、転職の意思、PTA活動の事、妹の病気（本人の叔母）の事等を話すようになり相談も持ち掛けられる。余命を宣告されている叔母夫婦も来所し会話をするようになってきた。

## T姉妹

母、小3・小1・小1の女兒3人、祖母の5人家族。3姉妹とも不登校傾向。小3の女兒は知的能力が高いが、欠席が多かったので進度が遅れている。小1の二人は、基礎的な学習を欠いている。児相保護経験あり。母親精神科に受診  
祖母認知症傾向有。親戚所有の戸建の借家。

### 孤立化 (地域・関係機関)

- 借家の家賃の関係で転居祖母の認知症が進行
- 転校先の学校には完全に不登校
- ゆーすぽーとに自力での通所不可能
- 郊外の為役所との距離があり、担当の目が届かず

### ゆーすぽーと 本体 & サテライト 支援

- 送迎サービスを提案して、再びゆーすぽーとに通所(体験活動のみ)
- 転居先近隣に当法人の小規模多機能ホームがあり、ゆーすぽーとのサービス拡充
- 3姉妹通所開始(昼夜逆転の生活のため生活リズムが崩れ、学校生活に適応困難)
- ゆーすぽーとのサテライトを市教委と協議し「適応指導教室に準ずる」許可を得る  
サテライト・市教委・当該校の連携

### サテライトでの 日常的支援

- 徐々に生活のリズムを取り戻し、保健室登校を始める
- 同級生との交わりも徐々にできてきた。
- 心を閉ざして会話も少なく、妹へのいじめがあった姉が会話が増え明るくなった

### 孤立化の解消

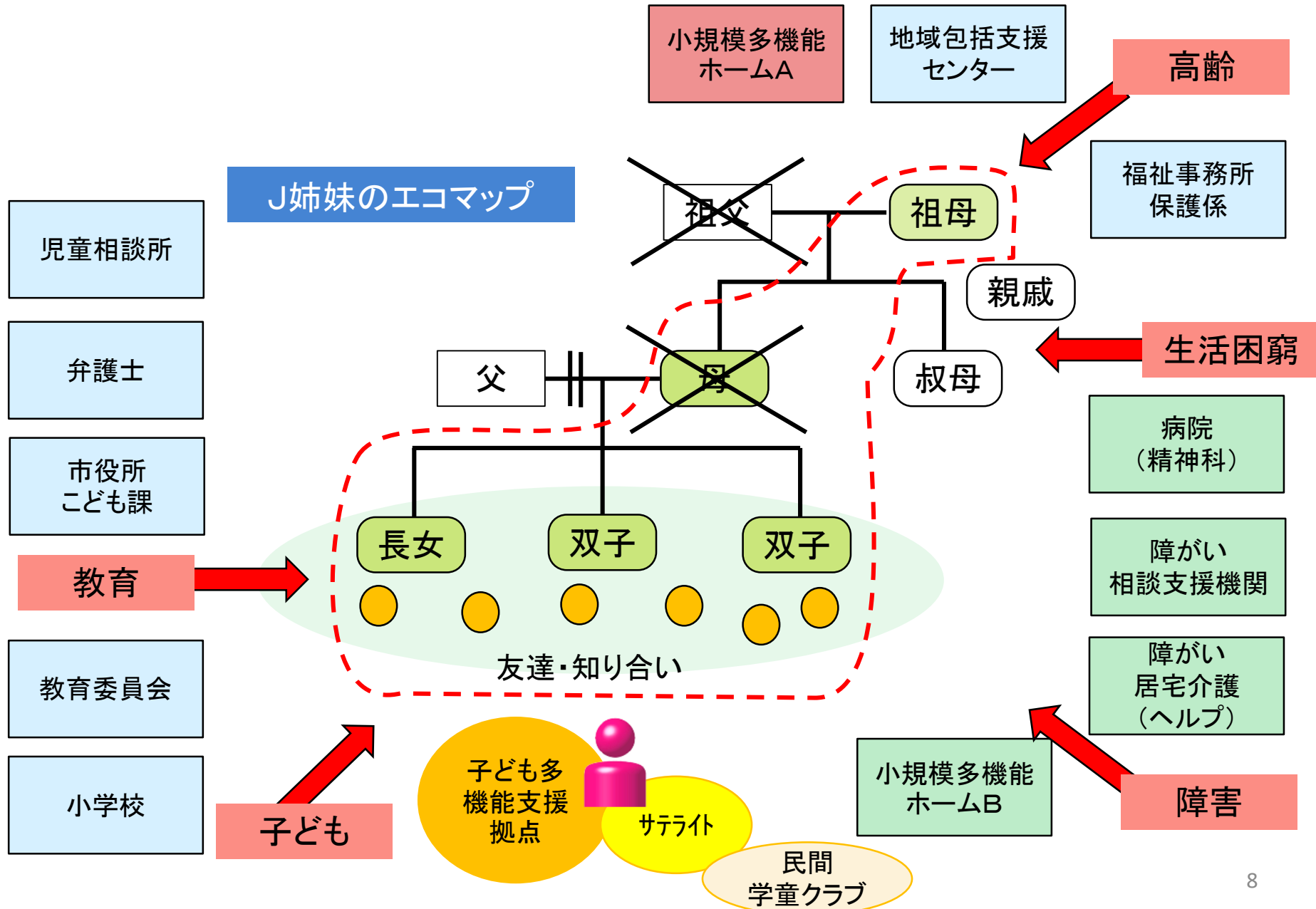
- 現在は小3・小1の一人が教室に入り、休まず登校
- 小1の一人は校長が迎えに来てくれて、校長室などの別室登校をしている

### 保護

### 法人の小規模多機能ホームによる家族支援 市内障害関連事業所及び機関との連携による支援

- 小規模多機能型居宅介護の共生型自立支援事業で母親支援
- コーディネーターの調整による障害相談支援機関及び地域包括支援センターとの連携により、母親と祖母の支援を実施

# 多様な課題を抱えた家庭や子どもを包括的に支援





# 数値目標と実績値

事業名	目標数値	実績値	達成率	分析
<b>1 居場所(語り場・学習習慣・食事)の運営</b> 1) 本体拠点 ①稼働日数 ②登録人数 ③延べ人数 2) サテライト拠点(※出前から変更) ④稼働日数※ ⑤登録人数※ ⑥延べ人数※	①192日 ②40名 ③1,536名 ④24日※ ⑤10人※ ⑥240名※	①190日 ②31名 ③1,301名 ④70日 ⑤3名 ⑥180名	①99.0% ②77.5% ③84.7% ④291.7% ⑤30.0% ⑥75.0%	2年目に入り、ゆーすぽーとの活動への理解と協力は増えたものの、子ども同士の関係性等もあり、登録が伸び悩んだ。子ども達の状況に合わせた環境整備が必要である。また、当初の計画であった出前に関しては、市内の事業者の協力をなかなか得られず実施できず。ニーズに合わせて、自法人内でサテライトを設置。次のステップの支援が見えた。
<b>2 社会体験学習・生活訓練</b> ①実施回数 ②参加人数(延べ)	①24回 ②240人	①39回 ②233人	①162.5% ②97.1%	本体及びサテライトと2箇所で開催。多様な体験の機会、生活訓練の場をつくることができたと共に、サテライトにおいては、地域への啓発にもつながった。
<b>3 ボランティア・サポーター養成</b> ①受入れ回数 ②受講人数	①3回 ②30名	①3回 ②54名	①100.0% ②213.0%	多様な形態で、ボランティア・サポーターの養成等を行うことにより、一定の成果を得ることができた。
<b>4 子ども支援コーディネーターの設置</b>	4名	8名	200.0%	コーディネーターへの協力者は増えたものの、1名あたりの時間にムラが大きく、安定した設置が必要である。
<b>5 ミニシンポジウム・中間報告会</b> ①中間報告会 ②ミニシンポジウム	①50人 ②120人	①30人 ②77人	①60.0% ②64.1%	市町村や学校、社協等に広報で協力を頂いたが、目標とする人数まで到達することができなかった。一方で、市内の多様な人達に参加頂いたので、理解が広がった。
<b>6 報告書の作成</b>	200部	200部	100.0%	関係機関へ個別に配布、郵送することにより、取り組みが広く知られることとなった。外部団体の方からメール等でも広報頂いた。9

# 事業の全体イメージ

ライフステージ(幼少期～青年期)



私たちが目指すもの!



夢や希望を持ち、  
生き抜く力を  
身につけた  
人づくり

貧困や不安定な  
家庭環境の  
連鎖を断ち切る  
環境づくり



様々な背景から支援が必要と思われる子どもで、学校や行政機関だけでは対応が追いつかないケース、連携した方が効果的なケース

生きる力を育む  
夢や希望を描ける力

地域の相対的貧困への理解

地域の虐待への理解

親・保護者

環境改善のサポート・啓発  
親・保護者との関係づくり

学び舎・  
ゆーすぽー  
と

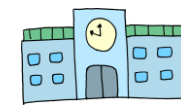
コーディネーター

東金市・  
適用指導教室  
(指定)

サテライト (居場所・養護的支援)

連携・協働

子ども及びの情報共有、具体的支援、維持・継続に向けた協議、運営委員会参加



学校

東金市・福祉事務所・教育委員会

<子ども多機能型支援拠点>

※注) 機能は、出会う子ども達によってつくられる



WAM  
助成事業

ちば舎

財源

支援



地域社会

- ①ボランティア・サポーター
- ②寄附・寄贈
- ③地域課題への理解・協力

- ◆東上総児童相談所
- ◆東金市社会福祉協議会
- ◆東金ひと・しごと・くらしサポートセンターこころん

# 事業実施において工夫した点

## 子どもの支援ニーズに合わせて多機能的な支援の実施

- 支援の必要な子どもに対し、必要に応じて「学習支援、社会体験、居場所、食事提供、相談支援、養護、送迎、訪問支援」等を多機能的に提供すると共に、本体とサテライト合わせて、週6以上の支援を展開。

## 関係機関・団体を交えた定期的な運営会議の実施

- 事業・拠点を効果的に運営するため運営会議を設置。  
2～3ヶ月に1回程度。教育委員会、市町村(福祉事務所・子ども課)、社会福祉協議会、地域ボランティア団体、食関連の地域団体の方々と個別ケースや事業状況について話し合い、効果的な運営につなげる。

## 専任コーディネーターの配置とサポーターの協力

- 本事業の肝となるコーディネーターには、教育と福祉の両方の経験があるものを基本配置。足りない部分を各種機関・団体の方が、サポーターとして協力いただくことにより、子どもを包括的にみれる体制を構築。

# 事業計画立案・助成申請のポイント

## ● 具体的対象者と出会う

法人内の事業や関係者を通じて対象者と関わりを持つ

## ● 関係機関等への丁寧なヒアリング

福祉事務所、子ども課、教育委員会、学校、生困相談支援事業所 等

## ● 地域の実態把握(数値及び事例)

自治体の統計資料、調査等

## ● ニーズに沿った支援仮説を立てる

学習支援や社会体験を入り口に、関わりから見えるニーズを見極め支援をつくる

## ● 人材及び協力者の確保想定をたてる

地域で活動する人材の情報を常に把握するようつとめる

## ● 事業の展開イメージをたてる

助成事業終了後も、維持・継続及び発展を見据えて展開イメージを具体的にたてる。

事業に関わる関係者と  
“ビジョン”や“ミッション”を共有する

子どもや家庭を取り巻く環境に向き合い  
ニーズを踏まえながらも半歩前を取り組み続ける

個人情報に配慮しながら、活動や事業を  
図や数値、事例等で可視化し地域と共有する